

心を広く、行動する強さを

阿南中学校 一年 八多 優希

(敬称略)

僕は幼い時、病気のために頭の手術をしました。だからその傷跡が今も残っています。最初そのことを知った幼稚園の時は、自分がみんなとは違う存在のように感じ、ショックでした。けれど、いつも温かく見守ってくれる家族のサポートがあり、傷跡にこだわらず、元気に毎日を送っていました。

しかし、小学校三年生の時、この傷跡のためにいじめを受けました。

「お前って頭に傷があるん。」

「だっさ。」

「気持ち悪い。」

数人のクラスメイトに口々に言われました。僕は何も言い返すことができませんでした。少しみんなと違うだけなのにと、落ち込む日々を送っていました。そんな僕に母が、

「優希は優希だから、堂々と生きていいのよ。」

と言ってくれました。その翌日も、またクラスメイトは僕をからかってきました。その時僕は母の言葉を思い出し、勇気を出して、

「僕は僕だから、堂々と生きるんだ。」

と言いました。その後、いじめていた子たちが僕の側に来て、

「僕たちもいじめをやめて堂々と生きるよ。」

と言ってくれました。

このことを母に報告すると、

「自分でよく言えたね。」

とほめてくれたことを今でも覚えています。僕がいじめられたことで、母もとても心配だったと思います。けれど、僕自身が解決できると信じ見守ってくれた母には、今も感謝しています。いじめに立ち向かうには、自ら行動したり発言したりする強さが必要なのだと、僕はこの時学びました。また、僕が勇気ある行動ができたのは、両親の支えのお陰だと思っています。

僕にはこの傷跡の他にも、重度の卵アレルギーがあります。命に関わるアレルギーを抱えた僕を育てる中で、両親には、悩みや心配が尽きなかったことでしょう。現在も、心配をかけています。けれど両親は、「優希は優希」と、誰と比べることなく、たった一人の存在として認め、大切に育

ててくれています。そんな家族の思いは、僕の自信や強さ、優しさにつながっていると感じています。そしていつも僕の背中を押してくれます。

僕たち一人一人には違いがあります。その違いで悩んでいる人もいるかもしれません。また、小さな違いをとらえて、相手の気持ちを考えず、いじめた経験がある人もいるかもしれません。そんな人全員に、僕は母のように伝えたいです。

「あなたはあなただから、堂々と生きて」と。「いじめているあなたは、堂々と生きていますか」と。そして、違いを認め合い、かけがえのない一人一人の存在として認め合うことで、自信や強さ、優しさがあふれることを知ってほしいです。そんな仲間と一緒になら、勇気ができることも知ってほしいです。

先日学校で、いじめに関する出前授業を受けました。その中でも、いじめをなくすために、傍観者になるのではなく、自分の考えをもつことや、行動することの大切さを学びました。いじめを止めるために行動するには、勇気が必要です。止めることで、自分がいじめられたら・・・と感じる人もいるでしょう。けれど自分を支えてくれる仲間の存在があれば、一緒に行動してくれる仲間がいれば、勇気がわいてくると思います。行動する強さと優しさのある集団にしていきたいでしょう。

僕はこれからも、後ろを向かず前を向いて歩んでいきたいです。仲間と一緒に、少しでも成長するために、人と比べずに、「今の自分以上をめざして」今日も一歩でも前に進みたいです。明日はさらにもう一歩成長したいです。これまで、失敗して恥ずかしかったこともあります。悔しかったこともあります。けれど、そんなことはたいしたことではないと思います。少しのことでもくじけずに、心を広く強く持つて、さらに努力や挑戦をしていきたいです。悔しかったことは、自分の努力で挽回したいです。周りの人にも広い心で、失敗した僕のことでも認めてほしいです。僕も広い心で、周囲の人を認め、一緒に努力したり、応援したりしていきたいです。

みなさんこれから一緒に、心を広く行動する強さを身につけ、人として成長していきましよう。そんな行動のできる、人として成長することのできる仲間をつくっていきましよう。そんな集団なら、いじめや差別も起きないし、また、いじめや様々な差別も解消していけると思います。